

共同行動の実施に向けた 栄養不良の原因の共有のための ガイドライン



共同行動の実施に向けた
栄養不良の原因の共有のための
ガイドライン

Published by arrangement with the
Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO)
by the
Japan International Cooperation Agency
Tokyo, 2019

本刊行物の原本は、国際連合食糧農業機関（FAO）によって発行された『Agreeing on causes of malnutrition for joint action』であり、日本語版は、独立行政法人国際協力機構（JICA）と FAO（栄養・フードシステム部および駐日連絡事務所）により作成された。翻訳に不一致がある場合には、原文が優先される。

本刊行物において用いられた名称および資料の表示は、いかなる国、領土、市、地域もしくはその関係当局の法的地位もしくは開発における地位に関する、またはその国境地域もしくは境界の決定に関する FAO および JICA のいかなる見解の表明も意味するものではない。特定の企業または製造業者の製品への言及は、特許の有無にかかわらず、言及のない同様の性質を持つ他企業や他製品よりも優先して、FAO および JICA によって是認されているまたは推奨されていることを意味するものではない。

本刊行物に示された見解は著者の見解であり、必ずしも FAO および JICA の見解または政策を反映するものではない。

ISBN 978-92-5-131731-0 (FAO)

© FAO / JICA, 2019 (日本語翻訳版)

© FAO, 2017 (英語版)

FAO および JICA は、本刊行物内の資料の使用、複製および普及を奨励する。別段の指摘がない限り、個人による調査、研究もしくは教育などの目的、または非営利製品もしくはサービスへの使用を目的とした資料のコピー、ダウンロード、印刷が可能である。ただし、出典元であり著作権を有する FAO および JICA が適切な承認を与えていること、および、いかなる形でも FAO および JICA が使用者の見解、製品またはサービスを是認するという意味ではないことを条件とする。

翻訳および翻案に関する権利ならびに再販およびその他の営利目的の使用に関する権利についてのすべての要望は、www.fao.org/contact-us/licence-request を通じて行うか、copyright@fao.org に送付される必要がある。

FAO の刊行物（原文）は、FAO ウェブサイト（www.fao.org/publications）に掲載されており、publicatios-sales@fao.org から購入可能である。

目次

序文	iv
謝辞	v
序論	1
なぜ栄養、食料安全保障および生計に関する共同計画立案が必要なのか	2
本ガイドラインの使用方法	3
問題・解決策分析系図とは何か	4
第1部 目標の明確化	5
何を達成するのか	5
どのレベルでワークショップを開催すべきか	7
どれだけの時間が必要か	7
第2部 計画立案ワークショップの企画	8
ワークショップの準備	8
参加者の選出	8
参加者への通知および招待	9
開催場所の選定	10
配布物の準備	10
ファシリテーターの動員および研修	11
ワークショップ開催に関する広報	11
計画立案ワークショップの運営	12
初回の全員参加セッション	12
初回のワーキンググループセッション：栄養不良に関する問題分析系図	13
第2回のワーキンググループセッション：栄養不良に関する解決策分析系図	17
行動・計画立案セッション	20
ワークショップに対するフォローアップ	21
第3部 ワorkshop手法の適用	23
別の目標を目指す場合	23
栄養および食料安全保障のモニタリングシステムの企画	23
研修	24
パートナーシップの促進および強化	25
多様なレベルにおける介入の場合	25
さまざまなタイムフレーム	26
時間を節約するためのヒント	26
「短縮版」の問題分析系図または解決策分析系図	27

序文

栄養不良は、通常、食料の消費および食料へのアクセス、保健衛生、教育、さらにはジェンダー関係、社会における平等、現地の社会的・環境的背景などに関連しており、相互に影響し合う要因が複雑に絡み合った形でもたらす結果である。持続可能な方法で、栄養不良およびそのすべての形態（発育障害、消耗症、微量栄養素欠乏、過体重など）に対処していくためには、個人、家庭、コミュニティ、地域レベルにおいて何が根本的原因であるかを理解する必要がある。

とりわけ、食料・農業システムに関連する介入に関しては、「どんな場合にもあてはまる」唯一の対応策は存在しないといえる。このため、栄養改善および持続可能な食生活の推進には、現地の実態および機会を踏まえた現地レベルでの共同での取り組みが必要となる。

本ガイドラインでは、直面している複雑な問題に対処するためのシンプルな参加型方法を提案する。本ガイドラインでは、広く知られている「問題分析系図・解決策分析系図」を基にした計画立案法に基づき、計画、研修、またチーム形成および各分野・セクターのステークホルダー（利害関係者）との連携強化のために活用できるワークショップの企画方法を説明する。

栄養不良の問題との闘いは、ミレニアム開発目標およびゼロ・ハンガー・チャレンジの中核であり、「ポスト 2015 開発アジェンダ」および持続可能な開発目標においても引き続き重要課題とされている。Scaling Up Nutrition Movement¹に参加している国家および開発パートナー数が増えていることを見てもそれが分かるように、栄養改善の課題には、これまでにない非常に広範囲のステークホルダーが取り組んでいる。FAO は、他の国連機関とともに、とりわけ One UN の一環として、REACH パートナシップ²および国連合同計画（UN Joint Programmes）を通じて、あらゆる形態の栄養不良を撲滅するという強い願いの実現のために積極的に取り組んでいる。

本ガイドラインは、共通の計画を立案するための手引きを簡潔に示すことで、共同実施、モニタリングおよび評価の実施を支援し、関係者が一致団結した形で解決策を生み出すことに寄与することを目的としている。本ガイドラインが栄養改善を目的とした効果的なパートナーシップを生み出し、強めていくための実用的なツールであることを確信している。

Anna Lartey
栄養部
部長



Barbara Burlingame
栄養部
副部長



¹ Scaling Up Nutrition: <https://scalingupnutrition.org/>.

² REACH Renewed Efforts Against Child Hunger and undernutrition:
<https://www.reachpartnership.org/it/home;jsessionid=CF3F7E02EC4767DA7141833C89525CE1>

謝辞

本ガイドラインは、FAO の過去 20 年間にわたるアジア、アフリカおよびラテンアメリカでの参加型の食料栄養計画立案における経験に基づいて作成されたものである。Charlotte Dufour と Florence Egal が、Manijeh Ali と Rosio Godomar から支援を得ながらこの編纂にあたった。著者は、草稿へのコメントを寄せてくれた Silvia Kaufmann および Emily Levitt、編集を担当した Marilee Karl、レイアウト担当の Francesco Graziano および Ivan Grifi、全体のコミュニケーション指導、最終編集、挿絵を担当した Chiara Deligia に感謝の意を表している。

FAO は、ドイツ連邦共和国のスポンサーによって、本ガイドラインの策定、フィールドでのテストおよび発行が実現できたことに感謝している。



序論

共 同行動の実施に向けた栄養不良の原因の共有に関する本ガイドラインは、開発プログラム、緊急援助プログラムおよびレジリエンス³構築プログラムにおいて、持続可能な栄養改善を目的として、セクター全体を統合する計画立案を推進できる専門家およびリーダーを支援することを目指している。

本ガイドラインでは、問題分析系図および解決策分析系図の両方または一方を活用する形で、下記の目的を持つワークショップ手法を紹介している。

- 栄養、食料安全保障および生計に関する啓発活動および研修
- 栄養プログラムの統合に向けた戦略的計画立案
- 栄養および食料安全保障に関する計画的な情報モニタリングシステム
- 栄養、食料安全保障および生計の改善に向けたパートナーシップの構築

この手法は、栄養に関する共同行動に従事しようという参加者の意欲を高めるための効果的な方法を示す。実習においては、参加者が自分たちの行っている活動が既に栄養改善に寄与していることを認識したり、各々の活動が、栄養と適切に結びつきギャップを補うことにより、適切な結びつきを持ちや特定された介入を付け足すことでより栄養改善に貢献できるなど、栄養改善に必要となる具体的行動について「解明」するためのツールとなる。

ワークショップは、参加者が相互に学び、中心となる人々や、計画を行動に変化させるための活動を決定する機会を提供する。ワークショップの中で生まれてくるグループとしての一致団結したエネルギーは、近い将来、実際に共同で計画を行動に移すための関係を強化する。

このようなタイプのワークショップは、参加者が栄養、食料安全保障および生計の概念について学ぶのと同時に計画立案にも取り組むことから、「研修と計画立案」の二つの目的を持ったワークショップと呼ばれる。

南スーダン

2012年11月、南スーダンの食料安全保障・生計クラスター（Food Security and Livelihoods Cluster, FSLC）は、食料安全保障に関する情報システムおよび介入に栄養問題をよりよく統合させる方法を特定するために、FAOに技術支援を要請した。FSLCは、栄養クラスターとともに、クラスター加入者および政府代表者が参加するワークショップを企画した。問題・解決策分析系図方法論を活用することで、参加者は、現行の食料安全保障・栄養監視システムのよりよい統合、さまざまなセクターにおける介入による相乗効果の改善、情報（例：異なる生計・文化グループ間の食習慣に対する理解の欠如）および介入（例：漁業コミュニティなど、特定のグループに対する栄養に関する

³ コミュニティを回復するための復興事業などを含む。

る教育および支援の不十分さ)に関する不足の特定などを行う機会を共有することができた。

なぜ栄養、食料安全保障および生計に関する共同計画立案が必要なのか

家庭および個人の栄養状態は多くの異なる要因によって形成されている。食料の入手しやすさや食料、保健、教育などへのアクセスはすべて栄養に大きな影響を与えている。しかし、社会関係やジェンダー、環境状況、インフラ、現地の経済・政治情勢なども人々の栄養に影響を与えている。これらの要因は、家庭の状況や生計によって、さまざまな形で相互に影響し合う。

栄養に影響を与えている要因は多数かつ多様であるため、栄養不良に対処する介入は、多数のセクターにわたるもの（マルチセクター的）であり、かつ統合されている必要がある。このことは共同行動にも要求される。現地の栄養不良の原因に対する理解を共有することが、健全な計画立案と効果的なパートナーシップの基盤となる。



現在、栄養、食料安全保障および生計に関連する非常に多くのイニシアチブが実施されており、フィールドにおける経験は豊富である。しかし、大抵の場合、ステークホルダーが限定されており、結果として、各プログラムの個別的または総体的な栄養への影響は弱い。これまでの経験を踏まえると、他の分野と調和されたアプローチがより強い影響を与えると考えられる。

栄養とレジリエンス：相乗効果の機会

栄養不良の削減を目指すマルチセクターによる取組みは、栄養が個人および家庭のレジリエンスにとって重要となることから、レジリエンスに関する課題とも密接に関連しており、レジリエンス構築プログラムの成果にもつながる。

レジリエンス構築プログラムの企画におけるエントリー・ポイントとして、生計グループごとの栄養不良の原因分析を活用することが有効である。これによって、計画が人々のニーズに焦点を当てていること、マルチセクター・アプローチを採用していること、また人々の当面のニーズおよびより長期にわたるニーズに対処する包括的な一連の介入を含んでいることなどを確保できる。

本ガイドラインは、さまざまな経歴やレベルのフィールド専門家が使える実践的な方法によって、計画立案にレジリエンスの概念を適用し、栄養の観点を採り入れる一助となり得る。

栄養、食料安全保障および生計に関する共同での計画立案は、Scaling Up Nutrition Movement の参加国など、マルチセクター・マルチステークホルダーアプローチによって栄養不良との闘いに取り組んできた国々にとってとりわけ重要な意味を持つ。本書で紹介される方法論は、栄養不良および食料不安への短期的・長期的な解決策の両方の特定に役立つことから、レジリエンス構築戦略の企画にとっても非常に重要である。

このような取組みを支援するためには、栄養、食料安全保障および生計に関する協働を目的とした開発プログラムや緊急プログラムに携わる専門家の能力を強化する必要がある。本ガイドライ

ンで紹介されているワークショップ方法論は、このようなニーズに応じて作成されたものである。本ガイドラインは、「農業を通じた栄養改善に関する主な勧告」（付属資料 1 を参照のこと）の適用により、食料・農業プログラムの栄養への影響の強化に関心を持っている組織も支援する。

世界開発アジェンダにおける食料および栄養の安全保障

栄養水準の向上は、貧困との闘いや国家および世界の開発目標の達成において不可欠である。十分な栄養は健康を守り促進し、特に母子の死亡率を低減し、また子どもが学校に参加してその恩恵を受けることの後押しをする。十分な栄養は、あらゆる年齢の個人が健康的かつ生産的であるために不可欠であり、したがって、その国家の経済成長や社会発展にも寄与する。逆に、すべての形態の栄養不良は、家族および国家に多大な経済的社会的損害をもたらす。

食料および栄養の安全保障の改善には、政府機関、市民社会、NGO、ドナー、国連機関および民間部門を巻き込んだ包括的かつマルチセクターによる戦略が必要となる。世界中の組織および個人が「**ゼロ・ハンガー・チャレンジ**」の達成を目指す国連事務総長の要請に応え、すべての男性、女性、子どもが十分な食料を得る権利を享受すること、女性が権限を与えられること、家族農業が優先されること、あらゆる場所における食料システムが持続可能でレジリエンスがあることなどを確実にするために、連携して取組みを行っている。**Scaling Up Nutrition Movement (SUN)** に参加し、栄養を自国の開発アジェンダの最上位に設定する国々の数も増加している（2013 年 10 月時点で 45 カ国）。これらの国々は、栄養不良の直接の原因および根底にある原因に対処するマルチセクターによる戦略を通じて栄養不良の削減に取り組んでいる。これらの国々の取組みは、SUN の参加者である市民社会、国連、ドナー、企業ネットワークなどによって支援されている。国家レベルにおいて、国連は **REACH (Renewed Efforts Against Child Hunger: 子どもの飢餓と闘う新たな取組み)** パートナリシップを通じて、栄養改善を目指すマルチセクターによる協調努力の強化を進める取組みを支援している。栄養不良の削減を加速するためには、包括的アフリカ農業開発プログラム（**the Comprehensive African Development Programme, CAADP**）など、地域レベルや国家レベルでの食料・農業政策および介入に栄養に関する目標や戦略を組み入れることも必要となる。

本ガイドラインの使用方法

本ガイドラインでは、以下のようなワークショップ手法を紹介している。

- 現地のニーズや状況に応じたさまざまな目標の達成に向けて利用できる柔軟性のあるツールとなるもの
- さまざまな対象者およびタイムフレームに適応可能なもの
- 詳細な問題・解決策分析系図を基本としたもの

本ガイドラインは 3 部構成となっている。

第 1 部では、以下の点に関する手引きを示す。

- ワークショップの企画および運営によって達成する目標の明確化



- ワークショップを企画するレベルの決定（例：地域レベル、国家レベル、地方レベル）
- ワークショップを完了するために必要な期間の確定

第1部では、さまざまな状況におけるワークショップの例も示す。

第2部では、栄養プログラムの地方レベル（州または地区）での統合に向けて、戦略的計画立案の推進を目的とする「計画立案」ワークショップの企画方法に関する手引きを段階的に示す。ワークショップの準備や運営の方法およびフォローアップの方法に関する詳細な助言を示している。

第3部では、ワークショップをさまざまな目標、多様なレベルにおける介入（地域レベル、国家レベル、地方レベル）、さまざまなタイムフレームに適用する方法を説明する。

問題・解決策分析系図とは何か

問題・解決策分析系図は、合意形成や参加型問題解決のために使用する効果的な視覚化技法の1つである。この技法はどのように作用するのか。

参加者は、ある問題の原因を特定し、原因と結果の関係に従ってその原因を体系づけていく。

参加者は、目的のために「問題分析系図」を構築し、それを出発点として利用しながら問題分析系図と逆のイメージから成り立つ「解決策分析系図」を構築し、解決策を特定する。

問題・解決策分析系図の使用は比較的容易で、さまざまなニーズや状況に簡単に適用することができる。これによって、さまざまな技術的または社会文化的背景を持つ人々がうまく要点をつかみながら参加でき、豊富な情報および経験を融合する効果的な方法であるといえる。問題・解決策分析系図の例は、第2部の「ワーキンググループセッション」に示されている。

セネガル

問題・解決策分析系図を用いた手法は、栄養課題を林業プログラム・事業へ統合することを目的として、1996年7月にセネガルのティエスでのワークショップにおいて初めて試された。このワークショップでは、セネガル林業局の国家、地域、州レベルの職員ならびに保健、社会学、コミュニケーションおよび食品技術などを始めとする他分野の専門家が一堂に会した。各グループは、担当領域における栄養不良の原因を特定し、その優先順位をつけた。この分析に基づき、各グループは「問題分析系図」を描き上げ、その後それを「解決策分析系図」へと変化させていった。このようにして、各領域で食料・栄養状況の改善という観点から目標および活動を明確化し、優先順位付けを行うことができた。この手法は、参加者が以前には考えたことのなかった具体的な介入を明確に示した。参加者は、食料・栄養状況の改善に向けた戦略的枠組を描くことで、最初に自分たちは何ができるか、また次に誰が残りの部分を実行できるか、あるいは実行すべきかを特定できるようになった。また、参加者は、効果的な調整のための枠組の必要性についても意識するようになった。

第 1 部

目標の明確化

何を達成するのか

このワークショップは、下記に挙げた目標のうちの 1 つまたは複数を実現するために企画および推進されるものであり、通常、参加者が、十分な栄養の維持および摂取の促進のために重要とされるセクター（農業、保健、農村開発、教育、社会問題、女性の地位向上に関する問題）で開発プログラムおよび緊急プログラムの両方または一方に携わる専門家として活動していることを念頭に置いている。

啓発および研修に関連する目標

- 現地の食料および栄養の状況、栄養不良の主原因、またこの主原因と人々の生計との関係についてさらに理解を深めること
- 栄養、食料安全保障および生計の基本概念を明確化し、この概念を現地の状況と関連づけること
- さまざまなセクターおよび機関に属する専門家に対し、栄養改善における自身の役割および担当する事業やプログラムに栄養を統合していく方法について啓発すること
- 栄養プログラミングに関する現地機関の能力を強化すること

共同計画立案および調整に関連する目標

- ある選定された地区において、栄養不良の軽減を目的とした協働を進める方法を特定するとともに、食料安全保障、栄養および生計の改善に向けた地域レベル、国家レベル、州レベル、地区レベルでの戦略策定の基盤を作ること
- 食料安全保障、栄養および生計の改善に向け、各機関間およびマルチセクター間での効果的な連携の基盤を作ること

ルワンダ

1997 年、国連世界食糧計画（World Food Programme, WFP）は、所属職員ならびに食料安全保障および栄養に関連するルワンダの関係機関の職員に対する研修を FAO に要望した。WFP 以外の国連機関職員、政府の保健、農業、教育担当部局職員、主要 NGO 代表者なども参加した。参加者は、知識と情報を蓄積し、所属機関の活動およびプログラムを再検討した。この研修が大変重要であったのは、人々の食料安全保障および栄養に対して HIV/エイズが大きな影響を与えていることを明らかに示したことであり、これを受け、FAO は同地区での規範的な業務を開始することになった。

栄養および食料安全保障に関する情報システムの企画

- 食料および栄養状況のモニタリング、データ収集方法の改善、栄養状況についての包括的な分析を行うための基盤作りなどを可能にする指標を特定すること
- 栄養関連の事業およびプログラムに対するモニタリング・評価システムの中に含まれる指標を特定すること

多くの場合、1つのワークショップにおいていくつかの目標を達成することができる。これは、参加者が、計画立案やモニタリングシステムの企画に参加しながら、栄養、食料安全保障および生計の基本概念を学ぶためであり、このワークショップは研修付き「計画立案ワークショップ」と呼ばれる。

選定された目標にかかわらず、このワークショップは参加者間の関係を強化し、セクターや機関を超えた結びつきを構築する。



ブルンジおよびコンゴ民主共和国

コンゴ民主共和国

食料安全保障および栄養に関する情報システムの設立（1998年6月）のために農業省を支援していたFAO技術協力事業の中で、現地の情報ネットワークの基盤作りを目的とした食料安全保障および栄養に関する2日間のワークショップがキンシャサで企画された。さまざまな機関に属する参加者が、食料不安が最も大きいグループおよび個人の特定、食料不安が最も大きい類型についての合意、各グループの栄養不良の因果関係モデルの構築、各原因に関する適切な指標の特定、また州レベルおよび国家レベルでの適切な意思決定のための情報提供を目的とした情報の収集、分析および普及に向けた実用的な取決めについての論議などを行った。

ブルンジ

ブルンジでは、同様のアプローチがUNICEF・ブルンジの要請および財政的支援の下で採用された。1998年10月、FAOは、栄養および家庭の食料安全保障に関する各機関間のワークショップの企画を支援し、この場で政府職員やNGOが食料不安の大きい主なグループにおける特有の指標を特定し、州における現地の食料安全保障および栄養に関する情報システムの必要性および手法について合意した。このワークショップの成果の1つは、国家機関と国際NGO職員との結びつきの強化であった。

どのレベルでワークショップを開催すべきか

ワークショップは、地域レベル、国家レベル、州レベル、地区レベル、あるいはコミュニティレベルでさえも実施することができる。したがって、計画立案ワークショップの対象とされる地理的な区域を定義することが重要である。レベルは、達成を目指す目標や対象者に応じて決定されることになる。



本ガイドラインの第2部では、地方での計画立案および提携の構築を行うツールとして、州レベルまたは地区レベルでのワークショップの企画方法についての詳しい手引きを示す。しかし、この手法は他の活動レベルでも応用可能である。第3部では、地域レベル、国家レベル、コミュニティレベルで活用するための応用方法に関する助言と事例が示されている。

アフガニスタン

2002年5月、FAOは、他の国連機関との連携の下、アフガニスタン国内での食料安全保障および栄養の問題に関する主要な活動者の意識を高め、何が実行できるかということについてよりよい理解を生み出すための最初のワークショップをカブールで企画した。このワークショップでは、さまざまなセクターに属する男性および女性が一堂に会し対話を開始し、将来の連携に向けた土台作りが順調に進められた。その後、同様のワークショップが州レベル（バーミヤン、ヘラート、ジャララバード、カンダハル）で企画され、意識の向上とともに、現地機関の共同での能力構築に寄与した。この手法は、農業省のさまざまな部局でも、栄養不足に対処する農業関連の戦略の企画に活用され、2つの主要戦略の特定につながった。1つ目の戦略は、冬期消費用の食品加工など、家庭を中心とした食料生産の促進に焦点を当てたものであり、2つ目の戦略は、市場取引ならびに食料およびその他の生活必需品の販売、生産および入手を目的とした市場アクセスの発展に焦点を当てたものである。

どれだけの時間が必要か

ワークショップの実施に必要とされる期間は、達成を目指す目標、参加者の経験、および使用可能な時間などによって決まる。（例えば、研修の場合）最長5日間のワークショップもあるが、プログラム・マネジャーやプランナーが、3日以上都合がつくことは稀である。本ガイドラインの第2部では、2日間終日にわたってワークショップを実施する方法を示す。これは、計画立案プロセス全体に必要となる最短の時間である。しかし、経験豊富なファシリテーターは、2日間終日にわたり参加者を集めることが困難な状況には、何らかの短縮を行い、さらに短い時間内で実践することができるだろう。この手法を異なるタイムフレームで実施する方法に関する手引きは第3部で示されている。



第2部

計画立案ワークショップの企画

ワークショップの準備



ワークショップを十分に準備するために必要なさまざまな作業を考慮すると、ワークショップ予定日の2~3週間前にワークショップ開催予定地区を事前訪問することが望ましい。現地に拠点を置く同僚やパートナーが、ワークショップ開催までの準備段階において準備状況を監督することもできる。

参加者の選出

このワークショップの成功は、最終的には参加者の選出に懸かっているといえる。意思決定やプログラム管理に大きく関与する、幅広いセクターや組織の専門家に参加してもらうことが重要である。参加者は、監視員、普及指導員、コミュニティ動員担当員など、フィールドでの豊富な経験と現地のニーズへの十分な理解も持ち合わせているべきである。

農業、農村開発、水管理、公衆衛生、教育、女性の地位向上に関する問題、青少年に関する問題およびその他の関連フィールドで活動する現地政府の代表者は、ワークショップに招待すべきであり、その地区で活動する市民社会団体（CSO）、国内・国際NGOおよび国連機関などの代表も同様である。

現地の状況およびワークショップの目標によっては、コミュニティリーダー、教員、保健職員などのコミュニティのメンバーを招待することが適切かつ有益である場合もある。参加者の性別のバランスは、現地の状況が許す限り、尊重されるべきである。

すべての参加者が快適で、自由に意見を発表できるようにワークショップを設定することが重要である。開催場所は、アクセスしやすく、参加者に威圧感を与え過ぎないような場所にすべきである。議論は、参加者が会話に使用している主要言語か、あるいは適切な翻訳サービスを利用して行う必要がある。

さらに、コミュニティレベルでの（開発または緊急）事業やプログラムを実施または支援しているすべての機関が確実に参加するように努力がなされるべきである。その目的は以下のとおりである。



- 既存の資源、経験、情報を特定および利用するため
- 機関横断的な計画立案および実施のメカニズムのための土台を提供するため
- 実施にあたって、現地レベルで分野横断的な展望を確実に維持できるようにするため

参加者一覧表の作成は、現地のステークホルダーに関するデータベースを保持する現地調整事務所にて補助してもらうことが可能である。現地調整事務所が配布した連絡一覧表を利用する場合は、現在使用されていない連絡先、正確でない電子メールアドレス、新たなステークホルダーなどに関する有益なフィードバックをこれらの現地事務所に対して忘れずに提供する。

参加者数は20～35名が理想的である。参加者が少な過ぎる場合、共有されるべき経験や見解の豊富さが限られてしまう。逆に参加者が多過ぎると、各個人が積極的に参加し、議論の共有を促進することが困難になる。

ワークショップに参加する職員、意思決定および計画立案を職務とする者またはプログラム・マネージャーなどが、ワークショップ終了後数週間から数カ月間にわたって所属組織にフィードバックを提供し、合意された決定事項に対するフォローアップが行われているかを確認する立場となることを確認する。



参加者への通知および招待

現地政府当局者との協働は重要であるため、初期の準備段階から始める。協働を働きかける現地当局関係者は、所属組織の主要なパートナーやカウンターパート、州もしくは地区の首長、副首長である必要がある。これらの当局者は、栄養がすべての開発パートナーにとっての懸念の1つであることの強調や、関係する参加者全員の招集において極めて重要な役割を担うからである。望ましいのは、その地区の首長または主要な政府代表者がワークショップを開催することである。それが不可能な場合、首長室や、セクター横断的に機能する計画立案を担当する部局に所属しているハイレベルの高官が首長の代理を務めてもよい。

その他の当局者から支援を得るためには、直接面会し、何についてのワークショップであるかを現地の言語（または複数の言語）で要約した書類を配布することが役立つだろう。

以下の目的のために、招待するさまざまな団体の代表者に面会することも推奨される。

- ワorkshopの目標を説明すること
- 議事次第、選出された参加者、ワークショップのプロセス自体に関する代表者の何らかの提案を聞くこと
- ワorkshopにその組織の代表として適切な人物（つまり、意思決定者またはフィールドでの豊富な経験を有している職員）が出席することになっているかを確認すること

面会に続いて、招待状を発送し、ワークショップ開催の決定に至った背景、その目標、参加者の氏名および経歴の両方またはその一方、開催場所、日時などを説明する。

ある地区または州で企画されるワークショップの場合、例えば、招待状については、首長室名義ならびに／または首長室、その他の主要政府部局および貴所属組織の共同名義での招待状の発送が望ましい。



開催場所の選定

開催場所には、理想的には 25～30 名の参加者全員を収容するのに十分な大きさの本会議室、および 6～8 名で構成されるワーキンググループ用のスペース 2 室が用意されるべきである。電力は絶対には必要でないが、少なくとも壁と雨風を防ぐための何らかの構造が不可欠である。開催場所には、3～4 つのグループが互いに邪魔し合うことなく、議論を行うことができる十分な大きさが必要であり、また少なくとも 2 枚の大判の紙を掲げるための壁が必要である。1 枚は問題分析系図、もう 1 枚は解決策分析系図である。

ワークショップがマルチセクター的側面を持つことを考慮すると、選定される開催場所は、首長室など地域調整事務所にある会場、またはホテルの会議室を始めとするその他の中立的な会場が望ましい。代替的には、関連省庁内または国連機関もしくは NGO の事務所内に開催場所を設定することもあり得る。開催場所の選定については、現地当局者と話し合うべきである。

配布物の準備

- ✓ 茶色の包装紙（2×1.5 m）6 枚、または大判のフリップチャート紙 12～18 枚
- ✓ 白色のマスキングテープ 3 巻
- ✓ 先端が三角形の紙用マーカーペン（各参加者に 1 本）
- ✓ 厚手画用紙から作成したカード、できれば 2 色（1 つは問題分析系図用で、もう 1 つは解決策分析系図用）。これらのカードは、ほとんどの文房具店で、A4 サイズの画用紙を切断して作成するよう注文できる。各参加者にそれぞれの色のカードを約 10 枚ずつ用意する。
- ✓ フリップチャートのスタンド



提供物が現地で入手可能かどうか確認する。もし不可能ならば、一番近くの都市から運ばなくてはならないだろう。包装紙は、通常市場で購入でき、フリップチャート紙、マスキングテープ、画用紙、マーカーペンなどは文房具店で見つかることが多い。包装紙またはフリップチャート紙は、問題分析系図および解決策分析系図を構築していく空間として使用されることになる。この 2 種類の紙は、参加者が到着する前に、開催場所の壁に掲げておく必要がある。

食事：現地の慣習に従い、午前および午後のお茶やコーヒーならびに昼食など、軽食や食事を準備する。





ファシリテーターの動員および研修

ワークショップは、栄養や食料安全保障の問題に関する経験を有し、問題・解決策分析系図を用いた手法に精通しているとともに、ワークショップを円滑に進めるための優れたスキルを持ったリードファシリテーターによって実施されるべきである。

さらに、3~4名のグループ・ファシリテーターをワークショップが開始される前に指名し、ワークショップのファシリテーターによる模擬実習において研修を受けさせる必要がある。グループ・ファシリテーターは、栄養および食料安全保障に関する技術的専門知識を有し、議論の進行中に中立を保つことができる立場にある者が望ましい。ファシリテーターがワークショップ開催前に問題・解決策分析系図の構築のプロセスを体験してみることは非常に大切である。ワークショップが2つの言語（例：英語および現地の言語）で開催されるような場合は、グループ・ファシリテーターが2言語の使用者である必要がある。そうすれば、さまざまな参加者が最もなじみのある言語で相互交流することが可能になる一方、翻訳の必要性は限られるため、プロセスの流れを保つことができる。

ワークショップの間、リードファシリテーターはグループからグループへと回り、必要とされる場合には各グループを支援し、すべてのグループが順調であることを確認する。

ワークショップ開催に関する広報

現地の新聞雑誌やテレビには、一般的にワークショップやその他の現地での活動に対して十分な報道を行うために連絡すべきである。ワークショップについて適切に公表することは、ワークショップの結果に関する政治的コミットメントの強化や現地住民間での栄養への関心の形成にも寄与すると考えられる。ワークショップの開催およびその開催中に効果的な広報を行うためには、活用するメディアに対して適切で、対象とする聞き手に適した明確かつ首尾一貫したメッセージを作成しておくことが重要である。





計画立案ワークショップの運営

ワークショップの議事次第では、全員参加のセッションとグループワークとを組み合わせる。以下で説明するワークショップセッションの開催には、2日間以上かかる可能性がある。ワークショップの議事次第の例は、付属資料2で紹介している。

全員参加のセッションは、参加者がお互いに知り合い、現地に関する能力や経験を共有する機会を提供する。また同セッションは、とりわけさまざまな機関や技術的背景を持った参加者が参加していることから、現地に関連する情報を参加者に提供する機会でもある。適切と思われる場合には、ワークショップ・ファシリテーターは、参加を後押しするための視覚化技法を広範囲にわたって使用しながら、栄養、食料安全保障および生計について必要な理論に関する研修情報を参加型問題解決プロセスに組み入れることが可能である。

初回の全員参加セッション

最初の全員参加セッションではワークショップの議題を紹介し、半日程度の時間が必要となる。

» ステップ1：イントロダクション

このステップには、関連する現地当局（地域の首長など）による最初のスピーチ、参加者の紹介、またリードファシリテーターによる今回のワークショップの目標および議事次第の発表などが含まれる。スピーチおよび発表では、ワークショップを実施する理論的根拠を説明し、現地でのイベントや計画立案プロセスとの結びつきを示す必要がある。

» ステップ2：関連地区における栄養状況についての議論

リードファシリテーターは、栄養状況についての議論を開始するにあたって参加者に以下のような質問をすることができる。「参加者の地区に栄養不良が存在するか」、「その影響を最も受けているのは誰か（年代、性別、社会経済的、生計などのグループなど）」、「その結果として何が起こっているか」、「その結果はどのように現れているか」。この時点では、原因についての議論を避けることが最も望ましく、後に行う参加型グループワークの代わりになってしまったり、先入観を与えることがないようにする。

話し合いの重要点については、今後の参考とするために紙のボード上に記入しておくべきである。定義を示す前に、栄養についてどのようなことを知っているか参加者に質問することが望ましく、それによって、さまざまな形態の栄養不良に対する参加者の理解度を評価し、現地の栄養不良に対する認識について特定することができる。

次に、ファシリテーターは、参加者が重要な概念、つまり以下の概念について熟知していない場合、それを明確化する。

- 慢性および急性の栄養不足
- 微量栄養素欠乏
- 食料安全保障
- 生計および生計グループ

重要用語の定義は、付属資料3に示されている。

そして、議論を完了する際に、その地区の入手可能な栄養データ（例えば、消耗症、発育阻害、微量栄養素欠乏などの比率）を簡単に発表する。この発表は、参加者または中心となる人物の1人が行うことになる。

» ステップ3：食習慣についての議論

次に、参加者間で、家庭での食事やその州における食習慣（食事の回数および構成内容、季節的な変動、これまでの発展、子どもに与える食事など）について議論を行う。これを通して、ファシリテーターは、バランスのとれた食事、子どもに与える食事、その地区の食料源、食事構成の変化などについての基本的な見解を明らかにすることができる。この場合にもやはり、重要点を今後の参考とするためにフリップチャートに記入しておく必要がある。

» ステップ4：グループ討議の基本となる最も脆弱な生計グループの特定

この時点で、参加者は、自身の個人的な経験を基に、その地区で最も脆弱な生計グループを特定する。ファシリテーターは、誘導のために以下のような質問をすることができる。「栄養不良の影響を最も受けるのはどのグループか」、「そのグループにはどのような特徴があるか」、「どのような場所に居住しているか」、「そのグループの食習慣は他のグループと異なっているか、もしそうであればどのように異なっているのか」。ファシリテーターは、脆弱性の概念を紹介することが可能である（付属資料3用語集の脆弱性の定義を参照のこと）。計画立案セッションにつなげるため、3~4つの生計グループに関して参加者間で合意する。

初回のワーキンググループセッション：栄養不良に関する問題分析系図

参加者は、1グループ6~10名程度で構成される3~4つのグループ（各生計グループに対して1グループ）に分かれ、1つのグループを1名のグループ・ファシリテーターが先導する。ワーキンググループのプロセスは、栄養、食料安全保障および生計に関するマイクロプランニングのプロセスを綿密に作成することを目的とするため、次の点が重要となる。1) 参加者が検討の対象となる生計グループを熟知していること、および2) グループが分野横断的かつ機関横断的で、性別のバランスがとれていること。参加者は参加を希望するグループを選択することになるが、グループの構成を確実に最適化するために、ファシリテーターが数名の参加者にグループの変更を勧めることも可能である。

上記で述べたように、各グループは、他のグループを妨げずに議論を行うために十分な物理的空間、および少なくとも2枚の大判の紙（1枚は問題分析系図、もう1枚は解決策分析系図）を掲げるための十分な壁の空間を確保する必要がある。これら2枚の紙は、ワークショップ開始前に掲げておかなければならない。

初回のワーキンググループセッションでは、特定された各生計グループの栄養不良の因果関係モデルの構築に重点を置く。うまく議論を開始する方法は、議論の対象となっている生計グループの主な特徴を明確化することである。例えば、牧畜家グループを他の生計グループと区別する重要な特性、および同グループの食料システムや生計の側面の大部分を決める重要な特性には流動性がある。

条件を満たした問題分析系図を構築するために、ファシリテーターは次のようなステップを踏むことができる。

- 「栄養不良」というラベルが貼られたカード1枚を大判の用紙の下部に置く。
- 厚手画用紙を切り分けて作成したカード（1色のみ）とマーカーペン1本を各参加者に配布する。参加者に、自分たちが考えるその特定の生計グループの栄養不良の主要原因をカードに記入するよう求める。参加者の記入の仕方は以下のとおりである。
 - ◇ カード1枚につき1原因
 - ◇ 大文字で記入
 - ◇ 最大3～4語での否定的な意味の表現

2つ以上の言語が使用されている場合、参加者は2つの主要言語を用いてカードを記入することが奨励される。重要なのは、リードファシリテーターがカードを読み取れることである。

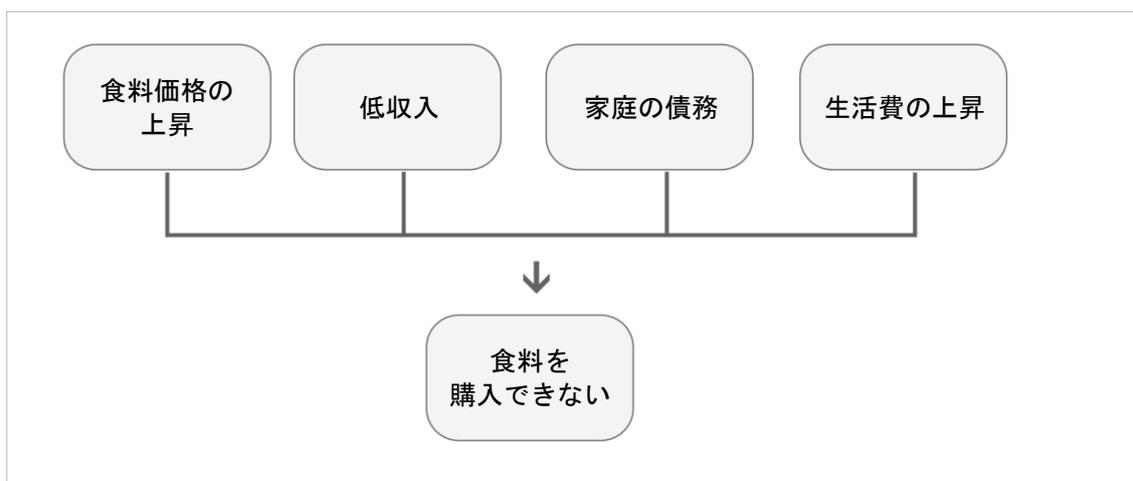
ファシリテーターは、参加者が栄養不良の原因を、「解決策の欠如」（例えば、これが不足、あれが不足）としていないか確認する必要がある。なぜなら、是正のための介入の欠如は問題の原因と同じものではないからである。例えば、「栄養教育の不足」は、「食習慣に対する不適切な意識」と代えて述べられるべきである。グループが解決策にたどり着こうとするときに、ファシリテーターは創造性と分析を後押ししなければならないため、この点は重要である。つまり、栄養教育の推進は、不十分な栄養教育の問題の解決策であるものの、決して唯一の解決策ではない。その他の解決策としては、例えば、仲間同士による母親への支援の強化などが挙げられるだろう。こうすることで、解決策分析系図は確実に、可能な限り包括的で現地に関連付いた、創造的なものになるだろう。

- 参加者がカードを完成させたら、すべてのカードを集め、重複しているものを取り除くように求める。時折、2枚のカードが異なる語を用いながら、実際は同じ内容を意味していることがある。この場合には、一方のカードを取り除くか、または2枚のカードを合わせて1枚のカードとして扱う。
- テーマごと（例：保健問題、農業問題、雇用問題、教育問題）にカードをまとめる。

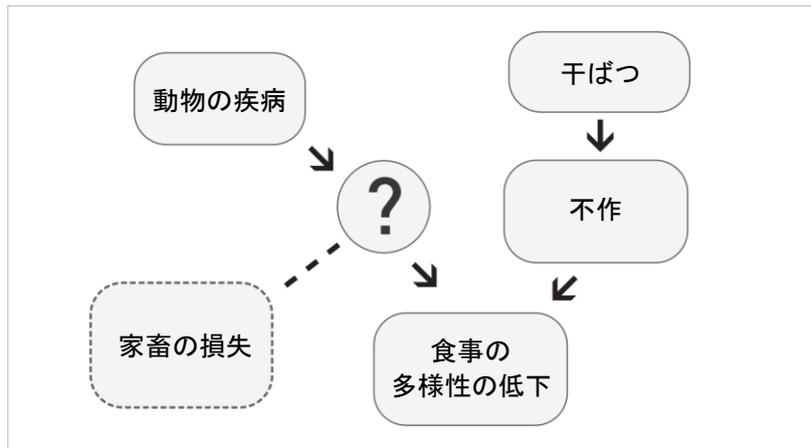
- 参加者の提案カードを使って、問題分析系図へのカードの配置を開始する。ファシリテーターの役割は、議論や討議を促進させることであり、自分自身で系図の構築を進めることではない。全員が参加しているかを確認する。グループ・ファシリテーターは、参加者がカードを組み合わせて問題分析系図をうまく構築していくように補助する必要がある。原因と結果の間に十分な論理的順序があるかを確認することが極めて重要である。そうでなければ、意味のある解決策分析系図を構築することが非常に困難となり、効果的な戦略を策定することも難しくなる。
- 下部から始めて、上部に向かってカードを系図に配置していく。参加者がその原因によって引き起こされていると考える問題のすぐ上部に原因が置かれる。参加者が原因と結果を混同することがよくあるため、反対になっていないかを確認する。



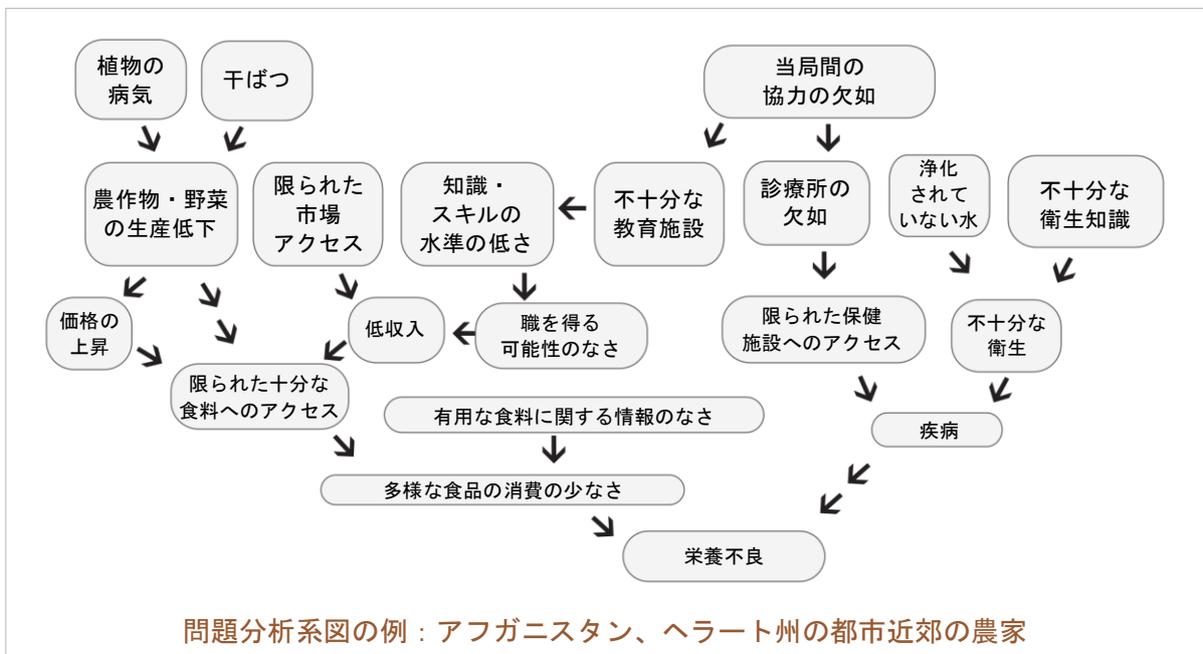
- 1つの問題に複数の原因が存在する場合がある。このような場合には、原因を問題の上部の同じ列に配置する（つまり、同じ高さに配置する）。以下に例を示す。



- 因果連鎖に関連性が欠如していないかを確認する。欠如している場合には、カードを1枚追加する。以下に例を示す。



- 原因を「文化」や「ジェンダー」といった総称的な語で表すことを避ける。文化やジェンダーのどの側面が栄養にどのような影響を与えているのかについて具体的に表すよう参加者に促す。
- 一旦カードが系図に配置されたら、非論理的な順序および関連性の欠如やカードの不足がないかを確認するために系図全体を見直す。因果関係を明確化するためにカードの間に矢印を描くこともできる。



注釈：正しく構築された系図という単一のモデルはない。カードの位置は、討議により常に自由に決めることができる。異なる参加者は異なる認識を持っており、実際、カードは合意に達するまで系図の「枝」の上を動き回ることがある。ファシリテーターの役割は、参加者が1つの合意

に達するように手助けすることであり、その一方で系図の「論理」が尊重されているかを確認することである。「栄養不良」のカードに一番近い位置にあるカードは、個人のレベルで栄養不良に影響を及ぼしている直接の原因（すなわち、不十分な食料消費や疾病）を表している。これらの原因は、家庭レベルで影響を及ぼしている原因の影響を受けており、その背後にはコミュニティや地域レベルの原因がある。系図の最上部は、「気候変動」や「戦争」といった広範囲に影響を及ぼす原因であり、体系のいくつかの要素に影響を与えているため、複数の因果連鎖と結びついている。

グループ・ファシリテーターは、ワークショップ・ファシリテーターに補助されながら、グループのメンバーが十分に強調しなかった重要なテーマ（栄養不良に対する環境的要因やジェンダー特有の原因など）に注目させることができる。また、グループの構成によっては、系図の一部が完成しない可能性がある。例えば、参加者の大部分が農業セクターから参加している場合、保健の側面への対応は不十分になるだろう。

このプロセスによって、活発な議論、また必要に応じてその他の原因を追加すること、原因と結果の間の論理的な関連性を明確化することなどが可能になる。グループは、他のグループに報告するために発表者を1名選ぶ。

問題分析系図はその場で発表され、それについての議論が行われる。さらに、ワークショップ・ファシリテーターからの技術的フィードバックが与えられ、他のグループから情報が投入される。

このセッションの終了までに、参加者は、栄養の概念およびその多様な直接的・間接的原因、またとりわけ家庭の食料安全保障、保健、教育、文化的慣行、環境管理などが果たす役割について精通するようになるだろう。現地の栄養、食料安全保障および生計の状況に対する共通の見解も生まれると考えられる。

この段階では、食料安全保障や生計の評価および脆弱性の分析など、関連する論題についての発表を組み入れることができる。これらの発表は、既に開始されている議論を確認、補完し、さらに広げることに寄与する。

注意：これらの発表は、後に行う議論に対して先入観を与えたり、グループの活動力を変化させたりしないよう、決してグループセッションよりも**前**に行われるべきではない。

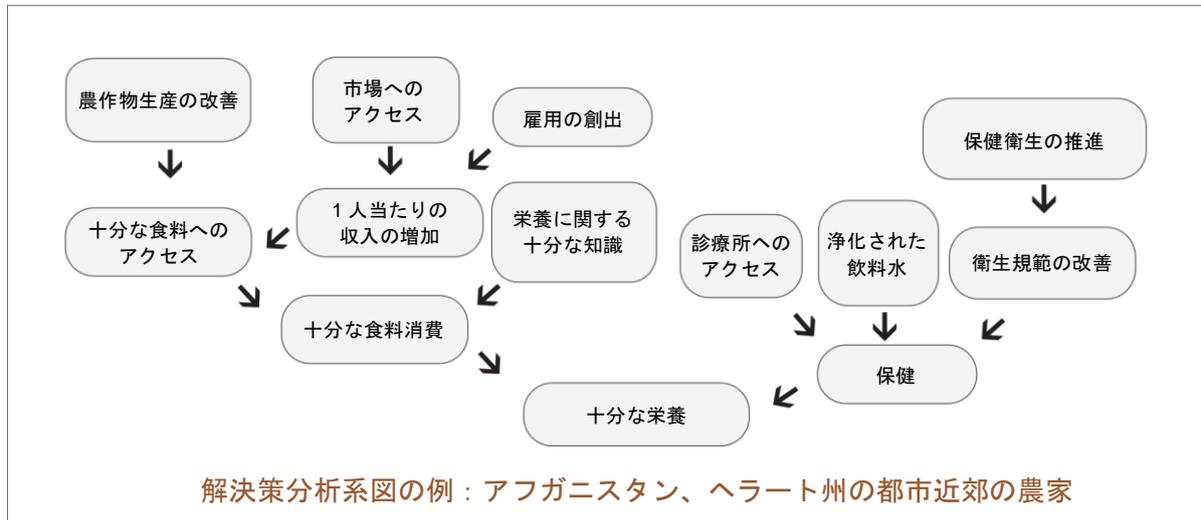
問題分析系図および初回の評価結果の発表に続いて行う議論は、参加者が情報を得ていない分野を特定したり、徹底した計画立案プロセスを確保するためにさらにどのような情報が必要かを明らかにする機会となりうることを念頭に置く必要がある。

第2回のワーキンググループセッション：栄養不良に関する解決策分析系図

第2回のワーキンググループセッションの開始段階では、各グループは自分たちの因果関係モデル（すなわち、問題分析系図）を修正し、関連があると思われるフィードバックをそこに組み入れることができる。そして、否定的な意味の各カードを前向きな解決策に言い換える「解決策分

析系図」の構築へと進んでいく。つまり、解決策分析系図は、問題分析系図とは逆のイメージになる。

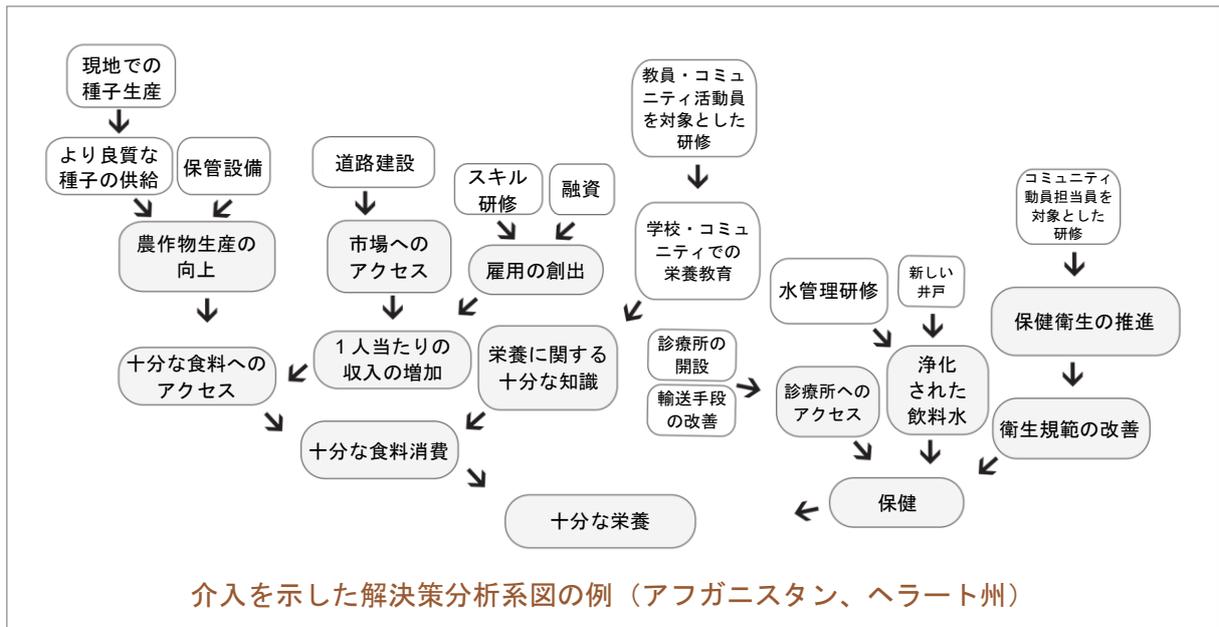
この段階では、解決策分析系図のカードは、単純に問題分析系図上のカードと反対の内容を示している。しかし、そこにさらに加えていくものがある。



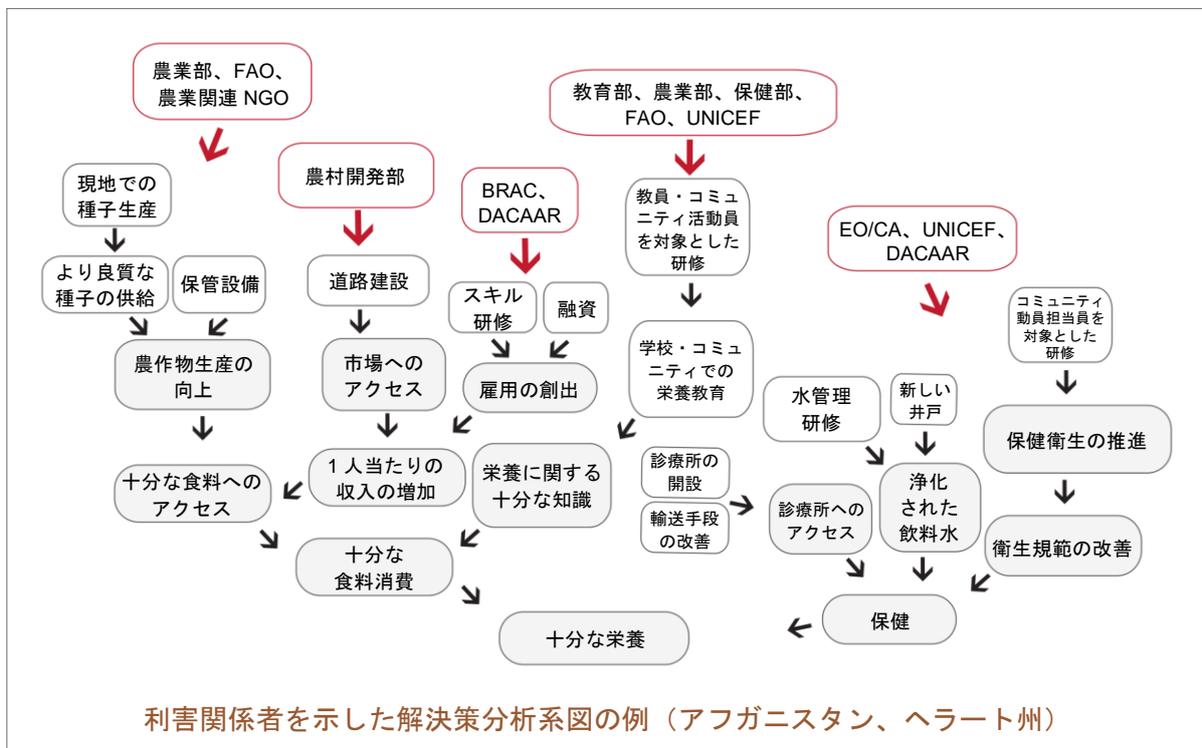
一旦各問題カードに対応する解決策カードが作成されたら、そこに追加のカードを加え、望まれる解決策および目標を達成するために必要な介入をより具体的に詳しく定める必要がある。

このような介入は常に、参加者が慣れていることや既に行っていることよりも、合意した栄養不良の原因に確実に合致していることが極めて重要である。

注釈：解決策分析系図の綿密な作成が、問題分析系図における不足や不完全な順序の特定につながる可能性がある。問題分析系図は、いつでも「修正」することができる。



特定された各解決策に対して、グループは、提案された介入を実施する権限および専門知識の両方またはその一方を有する機関を特定する必要がある。



特定された問題に対する解決策が生計グループ間の結びつきを強化させることがある。例えば、牧畜家と農家との間の取引が促進されることで、後者の乳製品の消費の改善および前者の野菜の消費の改善に役立つ可能性がある。

広範囲に影響を及ぼす原因（例：気候変動、戦争など）は、参加組織が対応できる範囲を超えていると思われるが、各グループはそれらを緩和する戦略を特定された介入の一部に含めることを検討する必要がある（例：環境保全型農業、紛争を助長しない計画立案など）。

次に、解決策分析系図が発表され、参加者全員での議論が行われる。この第3回の全員参加セッションの終わりには、食料安全保障、栄養および生計に関する現地での戦略の基盤が生み出されることになる。

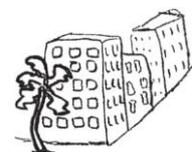
この段階（これ以前ではない）において、農業、保健およびその他のセクターに、栄養、食料安全保障および生計を統合する介入について、参加者である実施機関が発表することができる。

行動・計画立案セッション

ワークショップの最終段階では、国家、州、地区およびコミュニティレベルでのフォローアップ活動に向けた共同計画立案に重点を置く。同じ地理的区域で活動している機関を代表する各参加者には、小人数のグループで集まり、共同計画立案のための可能な関与について議論を行うよう求めることができる。解決策分析系図によって、多くの実行可能な行動が明らかになるだろう。一部の行動は既に実行されているかもしれないが、その他の行動はまだ実行されていない可能性がある。不足を特定するとともに、参加者に、既存のプロジェクトを強化し、またそのプロジェクトに栄養への影響をさらに高めると考えられる新たな活動を統合する機会を与えるのがこのセッションである。

そして、各グループの代表者は、全員参加のセッションで、グループのメンバーが実行しようとしている内容およびどこでどのような調整を行う予定であるかについてアイデアを発表することになる。この場で参加者は、州および地区レベルで必要になるとと思われる援助についても定義する必要がある。

注釈：リードファシリテーターは、既存の資源および、もし可能であれば少額のスタートアップ基金を活用して、何が本当に実現可能であるかを参加者によく考えさせることが重要である。



リードファシリテーターは、合意された重要なポイントとフォローアップ活動を要約し（全員が読むことができるように、紙のボード上が望ましい）、参加者全員が確認する。作成するメモには以下の要点を記すことができる。

- 注目すべき技術的分野
- 誰が、何に責任を持つのか
- 必要とされる資源
- 何を、いつまでに、どこで行うべきか
- すぐ後に続く次のステップ



ワークショップに対するフォローアップ

このワークショップは、共同計画立案プロセスの第1歩である。十分なフォローアップを行うことで、この勢いを維持することが重要である。

最初の作業は、ワークショップ報告書を作成し、その地区の関連するステークホルダー全員に（もし適切であれば、中央政府レベルでも）幅広く配布することである。この報告書には、全員参加での議論の要約、各グループが作成した問題分析系図および解決策分析系図（それらをタイプしたものが望ましい）、主な結論およびフォローアップのポイントなどが記載される必要がある。報告書作成に加え、以下のステップを検討することができる。

- 政府当局との個別の会合：提案された行動に対するフォローアップを行うために政治的コミットメントを強化する
- コミュニティレベルで活動する主要な組織および機関との会合：同組織・機関の行動計画の明確化、その活動計画の完了に向けた支援の提供（必要な場合）、機関間での調整および調和を確保する
- 現地コミュニティとの協議：ワークショップの主要提案を現地で適用する方法を議論し、コミュニティの代表者からフィードバックを受ける
- 活動の実施予定地区の関連機関職員を対象とした研修（例：栄養教育、食料生産など）
- 現地ドナーへの連絡：特定された活動への資金援助に対する現地ドナーの関心を確認する

共同計画立案メカニズムおよび提案された介入の実施を確実に牽引していくためには、提案された行動に対してフォローアップを行うワーキンググループまたは対策本部の設置が最良の方法である。この対策本部あるいはワーキンググループは、ワークショップ参加者および／またはその

他の関連組織との定期会合を計画する必要がある。またこの本部は、高い能力、職員の十分な時間および力強いコミットメントを必要とする。また、共同計画立案のプロセスを継続させる別の手段は、既に存在している別のワーキンググループまたは調整メカニズムとこのプロセスを結びつけることである。

フォローアップには、共同計画立案メカニズムおよびそれによって特定された活動の影響を評価・測定する方法も含まれる必要がある。

最後に、重要なのは、栄養、食料安全保障および生計に関するセクターにおける共同計画立案メカニズムの制度化である。これを行う1つの方法は、Scaling Up Nutrition (SUN) イニシアチブに既に参加している国、または SUN の出発点として共同計画立案を既に実施している国において、共同計画立案のための行動を同イニシアチブに組み入れていくことである。

第3部

ワークショップ手法の適用

このワークショップ手法は、以下の場合にも適用できる。

- 共同計画立案以外の目標
- 多様な介入のレベル
- さまざまなタイムフレーム

別の目標を目指す場合

栄養および食料安全保障のモニタリングシステムの企画

問題・解決策分析系図を用いた手法は、共同計画立案とは別の目標を達成するためにも適用することができ、例えば、栄養および食料安全保障のモニタリングシステムの企画という目標などが挙げられる。この目的のために使用する場合、ワークショップの参加者は、ある背景の下での栄養状況を理解し、効果的なモニタリング方法を特定することに焦点を当てることになる。この場合には、問題分析系図が大きく注目されることになり、解決策分析系図は必要とされない可能性がある。

このようなワークショップの主要な目標は、以下のようになる。

- ある地区における関連グループに関する詳細な問題分析系図を描くこと
- モニタリングシステムの一環として、モニタリングの必要がある問題分析系図の中心的要素（食料不安と栄養不良の主な特徴および原因）を特定すること
- 選び出した要素に対する現地の関連指標を確定すること
- 情報収集を委任する機関（およびその機関内の人物）を選び、収集方法を定義すること
- 問題分析系図の結果に基づいて、監視システムが提供するデータをまとめ、包括的に分析するための枠組やメカニズムに合意すること



研修

ワークショップ手法は、現地のニーズに従って、さまざまな種類の研修にも活用できる。例えば、以下の研修にも使用できる。

- 栄養、食料安全保障および生計の基本概念
- 栄養不良の複雑かつ現地特有の原因
- マルチセクターによる統合された栄養プログラムのための適切な計画立案方法
- 栄養および食料安全保障のモニタリングシステムの企画



これらのワークショップでは、計画立案ワークショップよりも、重要な概念や方法の紹介および説明に多くの時間が必要になるだろう。内容は、参加者の現在の知識や経験によって決まる。

注釈：研修ワークショップの間にも、参加者が自身の経験やアイデアを表すことができるような方法でワークショップが構成されることが重要であり、それによって、参加者の貢献を妨げてしまうことや現地の重要な問題を見落とすことを避けることができる。技術に関する発表を行う前に、グループ・ディスカッションやブレインストーミングに多くの時間を充てることでこれが可能となる。

西アフリカ

2011年5月、西アフリカの10カ国から農業省や保健省、市民社会、研究機関、開発パートナーなどを代表する50名がセネガルのダカールに集まり、西アフリカ栄養ワーキンググループが企画した「食料安全保障に向けた介入が栄養に与える影響の最大化」に関する地域研修に参加した。牧畜家、小規模農家、漁師、都市部の貧困者を、同地域で食料不安と栄養不良の影響を受ける主要な生計グループとして特定した上で、多数のセクターおよび国家にまたがるチームが問題分析系図および解決策分析系図を構築した。この参加型実習は、ツールの紹介ならびに状況評価、プログラム企画、実施、モニタリングおよび評価、調整などについてのフィールド・ケーススタディの紹介によって補完された。参加者は、縦割りを超え、セクター全体での建設的な対話や、食料安全保障および栄養の改善に向けた実践的な解決策に関する議論を行うことのできたこの機会を非常に高く評価した。

パートナーシップの促進および強化

このワークショップ手法は、機関間の共通言語の確立、状況の理解、また潜在的には対立の低減などにも大変効果的である。解決策分析系図は、異なる機関がどの部分について果たすべき役割を持っているかを明確にし、認識されている競争を補完の関係に変化させる手助けをする。この手法を活用して対話を確立し、パートナーシップを強化する場合、主要なステークホルダーが適切に紹介されているか、また開催場所が中立性を保った場所かを確認することが重要となる。

グアテマラ

グアテマラでは、1995年5月にペテンで、地方自治体による食料安全保障および栄養に関する計画立案ワークショップが2日間にわたって企画された。内戦後の雰囲気の中、政府やNGOの代表が集まった。この研修は、それぞれ対立する側に立っていた機関が内戦の後、初めて同席した機会であった。同ワークショップは、参加者に補完関係とパートナーシップの可能性を認識させる機会を与え、政府とNGO、および国内機関と国際機関の間の対話を後押しするために役立った。

多様なレベルにおける介入の場合

本ガイドラインの第2部では、この手法を州または地区レベルで活用する方法を例示した。本ガイドラインは、地域および国家レベルでの活用も可能である。この場合、栄養状況に関する議論は、より限定した地域レベルでの議論に比べると一般的になる可能性がある。規模の大きな地理的領域には、より多様なグループや社会経済的状況および農業環境的状況が存在しているためである。それでも、例えば、牧畜家、都市部の貧困者、農村地域で土地を所有しない家庭など、食料不安と栄養不良に対して脆弱な主要生計グループを特定することは依然として可能である。重要なのは、参加者の大部分が熟知している生計グループを選定することであり、それによって、問題および解決策の可能性についての徹底的な分析が可能となる。

この手法は、参加型計画立案のツールとして、コミュニティレベルでの活用も可能である。例えば、州または地区レベルでの計画立案ワークショップに対するフォローアップとしての活用が考えられる。しかし、非識字者率が高い地区では、読み書きのできないメンバーが参加できるようにするために、栄養不良の原因を例示する絵や写真を用いながら実施する必要がある。実習は、コミュニティレベルにおける参加型アプローチの確かな経験を有するファシリテーターが主導すべきである。





さまざまなタイムフレーム

時間を節約するためのヒント

ワークショップの時間を延長することは比較的簡単であるが、ワークショップを短縮することはより困難である。しかし、以下のように必要時間を減らすための短縮方法が存在する。

- 発表の数や長さを減らすことが可能である。例えば、時間を節約するために、食料安全保障や栄養の評価結果を発表しないこと、あるいは現行の介入の実施機関に説明を求めないことなどを決定できる。
- 計画立案ワークショップの場合、第2部で説明したような解決策分析系図の議論の後の詳細な行動計画の立案は、主な共通行動のポイントが特定されていく全員参加の議論の中で実施することができる。より詳細な計画立案の会合は、最終的には後日実施することもできるが、ワークショップで生み出された勢いを失わないよう、あまりに長い時間を経過させないことが望ましい。
- 比較的経験豊富な参加者のグループ（すなわち、既に栄養、食料安全保障および生計の概念に精通している専門家）ならば、問題分析系図や解決策分析系図を1日で構築することが可能であろう。つまり、午前のセッションで問題分析系図、午後のセッションで解決策分析系図を構築するのである。

アフガニスタン

短縮版の手法は、2008年に公衆衛生省、農業省、FAO、UNICEF、WHO（世界保健機関）、WFPおよびUNIDO（国連工業開発機関）などが参加して、子ども、食料安全保障および栄養に関する国連合同計画（スペインが拠出したMDG信託基金による資金援助を受けたもの）の企画を推進するために活用された。それによって、国家レベルおよびコミュニティレベルにおいて統合された方法で実施すべき共同行動を半日で特定することができた。

「短縮版」の問題分析系図または解決策分析系図

この手法が特定の共同計画立案のために活用される場合は、実習を数時間のみに減らすことも可能である。この「短縮」版は、いくつかの機関が共同計画の企画に取り組む場合や、計画プランナーが多忙で、ワークショップに2日間あるいはワーキングセッションに1日も出席できない場合などに役立つと思われる。

「短縮版ワークショップ」の運営は理想的な解決法ではないが、問題・解決策分析系図の実習をまったく行わないよりは望ましいといえる。実際、この手法は、利害関係者間で合意を形成し、計画が組織の権限やアジェンダによって決定される場合よりも、現実的なニーズに基づいて企画されることを確保する。

この適用には、統合を行う確かなスキルを備え、経験豊富なファシリテーターのリーダーシップが必要とされ、最も容易に実施できるのは、1組の問題・解決策分析系図のみの作業を行うことである。この場合、ただ1つの生計グループ、または対象となる住民の栄養不良の一般的な原因を示した「総合的」な系図に焦点を当てることが可能である。

以下の時間節約法が活用できる。

- ワークショップの数日前に、ファシリテーターが参加者に、考えられる栄養不良の主原因をすべて一覧表にして送付するよう求める。
- ワークショップの前に、ファシリテーターは色のついたカードに原因を書き、重複を取り除いた上でテーマごとにグループ分けする。
- ワークショップ当日、ファシリテーターは、再度テーマごとにグループ分けしたカードをボードの上に置き、全員参加のセッションで参加者とともに問題分析系図の構築を進める。
- 解決策分析系図を構築するために、参加者は小グループに分かれ、各グループが同系図の主要な枝1本ごとに対応する（例えば、保健に関する原因の枝、食料不安の原因の枝など）。各グループは、他のセクターとの結びつきの可能性を考慮しながら、解決策分析系図の担当枝部分を作成する。
- 次に、参加者は全員参加セッションに参加し、それぞれの枝を1つの解決策分析系図上に集める。
- そして、参加者は、解決策分析系図上に示されている介入のうち、どれを優先すべきかについて合意する。参加者は、同系図上に描かれるべき介入に関する不足を補い、誰が何を実行するかについて合意する。



付属資料



付属資料 1：農業を通じた栄養改善に関する主な勧告

農業プログラムと投資は、以下の場合に、栄養に与える影響を強化することができる

1. 明確な栄養の目標および指標をその企画に組み入れ、潜在するマイナスの影響について追跡調査および緩和を行う一方で、経済、社会および環境目標との相乗効果を模索する場合
2. 現地レベルでの状況を評価し、栄養不良の形態（慢性および急性の栄養失調、ビタミン・ミネラルの欠乏、肥満ならびに慢性疾患などを含む）および原因への対処を目的とした適切な活動を企画する場合
3. 社会的弱者を対象として、参加、資源へのアクセス、適切な雇用などを通じて公平性を改善する場合。社会的弱者とは、小規模農家、女性、青少年、土地を持たない者、都市居住者、失業者などである。
4. 共通の目標に向けた合同戦略を通じて、他のセクター（保健、環境、社会的保護、教育など）およびプログラムとの連携および調整を行う場合
5. 脆弱な農家の生計およびレジリエンスならびにすべての人々の持続可能な食料および栄養の安全保障にとって極めて重要である、天然資源基盤（水、土壌、大気、気候、生物多様性）を維持または改善する場合
6. 生産資源、収入の機会、普及サービスおよび情報、信用、仕事、時間を節約する技術などへのアクセスの確保ならびに意思決定への参加に向けた支援などを通じて、女性に権限を付与する場合
7. 生産の多角化を推進し、栄養豊富な農作物の生産や小規模畜産を拡大させる場合
8. 栄養価、品質期限および食品の安全性を維持し、食料不安となる期間や収穫後の損失を短縮・低減するとともに、手間をかけずに健康的な食事を用意するために、加工、保管および保存を向上させる場合
9. 社会的弱者のために、また特に栄養価の高い食品あるいは社会的弱者が生産において比較的優位に立っている製品の取引のために、市場および市場アクセスを拡大する場合
10. 栄養の促進や、既存の現地の知識、考え方および慣習に基づいた食料および持続可能な食料システムに関する教育を組み入れる場合

この勧告は、広範囲にわたる協議プロセスを通じて編集されたもので、栄養のための農業プログラムに関する総合指導方針（Synthesis of Guiding Principles on Agriculture Programming for Nutrition）（www.fao.org/docrep/017/aq194e/aq194e00.htm）に基づいている。



付属資料 2 : ワークショップ議事次第の例

1 日目

- 8:30～9:00 参加者の紹介
 現地当局による最初のスピーチ
 リードファシリテーターによるワークショップの目標およびアジェンダについての発表
- 9:00～10:15 選定された地区における栄養状況についての全員参加での議論
 栄養データの発表、食習慣についての議論
- 10:15～10:30 最も脆弱な生計グループの選定、グループワークについての説明および小人数のワーキンググループへのグループ分け
- 10:30～11:00 休憩
- 11:00～12:30 グループワーク：栄養不良の原因の特定および問題分析系図の作成
- 12:30～1:30 昼食休憩
- 1:30～2:30 グループワーク：問題分析系図の仕上げ
- 2:30～3:30 全員参加セッション：各グループが作成した問題分析系図の発表
- 3:30～4:30 各グループからのフィードバックの問題分析系図への組み入れ、ならびに特定の生計グループの栄養および食料安全保障の状況に関する発表（両方またはどちらか一方）

2 日目

- 8:30～10:30 グループワーク：解決策分析系図の作成
- 10:30～11:00 休憩
- 11:00～12:00 全員参加セッション：各グループによる解決策分析系図の発表およびそれに関する議論
- 12:00～12:30 関係する活動を既に実施している組織の参加者による発表ならびにワークショップ実習から生み出された新しいアイデアの発表および議論
- 12:30～1:30 昼食休憩
- 1:30～3:00 グループワーク（地理的区域によって組織されることが望ましい）：特定された解決策に関して実施可能な戦略および行動の可能性に関する議論
- 3:00～4:00 全員参加セッション：各グループからの提案の共有。
 この会合の最後に、フォローアップのポイントや責任の分担などを含めた、共

通の目標および遂行されるべき基本行動についての合意が達成されることが望ましい。

4:00～4:30 ワークショップの結論：行動の提案および教訓のまとめ

付属資料 3：重要用語の定義

急性栄養失調（または消耗症）：極端な食料不足や疾病の結果、急性栄養失調に陥っている個人は体重が減少する。主な症状は消耗症であり、身長が同じ個人に比べ、低体重である。この状態は、5歳未満の子どもに対して「体重-身長比（W/H）」指数で測定される。

慢性栄養失調（または発育障害）：慢性栄養失調に陥った個人は、精神的・身体的両面において、遺伝的潜在能力を完全に発揮するまで成長することができない。主な症状は発育障害であり、同年齢のグループに属する他者に比べ、低身長である。この状態は、5歳未満の子どもに対して「身長-年齢比（H/A）」指数で測定される。

食料安全保障：食料安全保障は、すべての人が常に、活動的かつ健康的な生活のために必要な食事と嗜好を満たすための、十分かつ安全で栄養に富む食料を入手する物理的・経済的手段を持っている場合に存在する状況（世界食料サミット、1996年）。

微量栄養素欠乏：微量栄養素は、良好な健康のために、あらゆる人が少量を必要とする必須ビタミン類およびミネラル類である。これらの必須ビタミン類およびミネラル類とは、ビタミン A、ヨウ素、鉄、葉酸などである。微量栄養素なしでは、人体は十分に成長し機能することができない。微量栄養素の摂取が不十分である場合、その結果は、先天性異常や精神的障害から、免疫システムの低下とそれに伴う病気に対する脆弱性を理由とした子どもの死亡などにまで至る可能性がある。

生計：生計とは、生きるための手段として必要となる能力、資産（物質的資源および社会的資源の両方を含む）および活動から成り立っている。生計は、ストレスやショックに対処し、そこからの回復が可能であるとともに、現在および将来の両方においてその能力および資産を維持または向上することが可能であり、その一方で天然資源基盤を侵食しない場合に、持続可能であるといえる（Chambers および Conway、1992年）。

低体重：低体重とは、子どもが同年齢の他者に比べ体重が少ないことを意味し、「体重-年齢比（W/A）」指数で測定される。低体重は、発育障害や消耗症の現れか、またはその両方が組み合わさったもののどちらかであると考えられる。

脆弱性：この語は、食料不安に陥るリスクに人々を置く幅広い要因を意味する。個人、家庭またはグループの脆弱性の程度は、そのリスク要因から受けている影響とストレスのかかる状況に対処できるまたは耐え得る能力によって決定される。

食料不安および栄養不良に対する脆弱性は、人々のグループ、家庭および個人のレベルで発生する。

- 最低限の食料の必要性を満たすことのできないリスクにある家庭：このような家庭は、社会経済的に脆弱であり、女性が中心の家庭、貧困家庭、土地を持たない家庭、住居を持たない家庭が多い。脆弱な家庭は、必ずしも貧困家庭の中で最も貧しい家庭ではない。複雑な政治的緊急事態にある場合、脆弱な家庭は、民族的、宗教的および／または政治的な所属により、無視または抑圧されているグループによって成り立っていることが多い。

- 生理学的な理由（例：妊娠、成長）から特別に栄養を必要としている者、および／または栄養の必要性を満たすための能力が低く、他者からの援助が必要な者であり、そのため栄養状態悪化のリスクが高い個人。このような個人は、生理学的に脆弱な者である。このような個人としては、幼児、成長期にある子どもおよび 10 代の若者、妊婦および授乳中の女性、栄養失調者、高齢者、孤児、病気の末期にある患者、知的・身体障害者などが挙げられる。



Food and Agriculture
Organization of the
United Nations

国際連合食糧農業機関



私たちの優先課題

FAO の戦略目標

FAO が目標とする飢餓および貧困の撲滅の達成は、困難かつ複雑な任務である。今日、事業の遂行方法を大幅に変更したことから、FAO は、さらに柔軟性のある組織となり、その活動は 5 つの戦略的目標によって後押しされている。新たに改革された FAO には、飢餓、栄養不良および農村における貧困との闘いに勝利する真のチャンスがある。

飢餓・食料不安・栄養不良の撲滅支援

食料安全保障を支えるために政策および政治的なコミットメントを推進すること、また飢餓および栄養の問題ならびにその解決策に関する最新の情報を利用可能かつ入手可能にすることで、飢餓の撲滅に寄与する。

農林水産業の生産性・持続性の向上

非常に生産性の高い農業セクター（農業、畜産業、林業、漁業）を支えるために根拠に基づいた政策および実践を推進する一方で、そのプロセスにおいて天然資源基盤に害を与えないようにすることを確保する。

農村の貧困削減

貧困から抜け出す道を構築するために、農村の貧困者が、農村での雇用や社会的保護など、必要とする資源やサービスへのアクセスを得られるように支援する。

包括的かつ効率的な農業・食料システム

小規模農家による農業を支援し、農村地域での貧困および飢餓を削減するための安全で効率的な食料システムの構築を支援する。

災害に対する生計のレジリエンスの強化

各国が自然災害および人的災害に備えられるよう支援するため、各国のリスクを低減し、食料・農業システムのレジリエンスを高める。

ISBN 978-92-5-131731-0



9 789251 317310

13516JA/1/08.19

